

ありあけうみ通信

「有明海魚介類漁の再生を目指して」



第6号
(2015.5.18)



代表機関 一般社団法人 全国水産技術者協会
Tel. 03-6459-1911 Fax: 03-6459-1912
いであ株式会社 株式会社シャトー海洋調査
株式会社オオスミ 株式会社日本海洋生物研究所

ごあいさつ

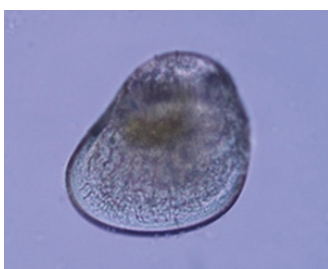
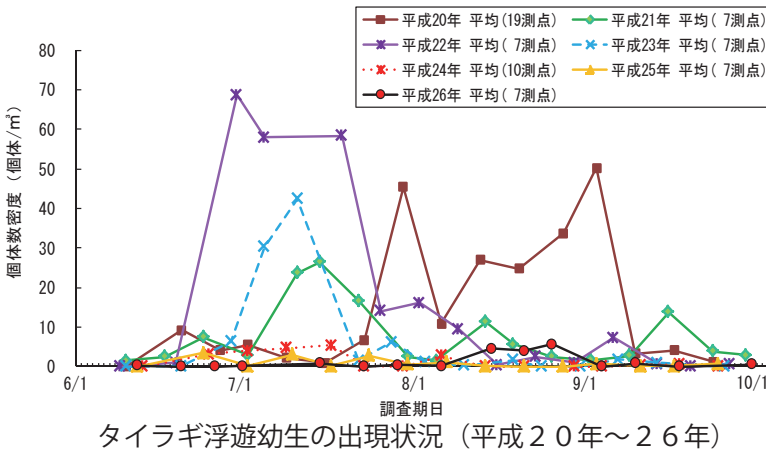
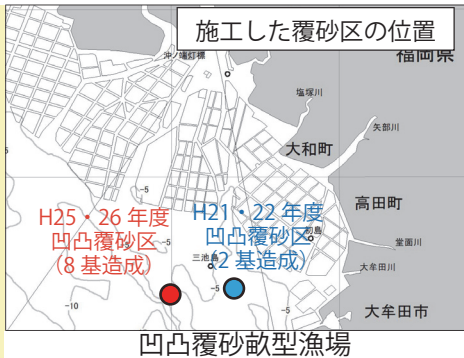
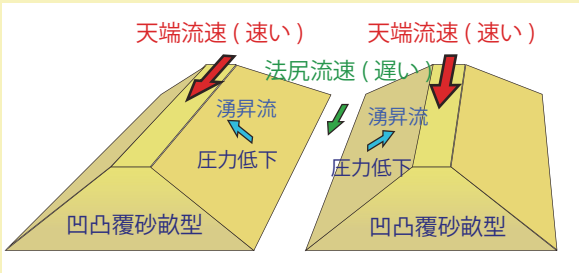
(二社) 全国水産技術者協会と四つの機関からなるグループは、今年度水産庁から「有明海水産基盤整備実証調査」の委託を受け、昨年度に引き続き、たいらぎ漁を中心として覆砂による漁業再生のための実証調査を行っています。

今年度は、これまで以上に「ありあけうみ通信」などを通じて、調査の進捗状況や解析の結果などを提供してまいります。

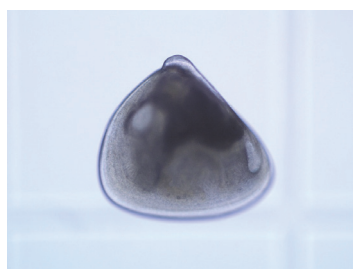
この調査には、有明海のことを熟知した皆様のご協力が不可欠です。皆様も、本事業や有明海に関してご意見などがありましたら、当協会までご意見をお寄せ下さい。

昨年度までに、福岡県大牟田沖に凹凸覆砂畝型による人工漁場を8基と2基造成しました。この凹凸覆砂畝型は、タイラギの浮遊幼生の着底を促進し、タイラギの成長に悪影響を及ぼす浮泥の堆積を軽減するとともに、タイラギだけでなく類やえび類の増加にも有効な可能性があります。今年度は、造成した凹凸覆砂畝型による人工漁場の有効性を実証し、タイラギ漁をはじめとする漁船漁業を再生するための調査に取り組んでまいります。

「ありあけうみ通信」は、これまでに、私も調査グループが取り組んできたことや今後の取り組みなどについて発信して来しました。



平成26年6月12日出現
殻長: 0.15mm



平成26年9月10日出現
殻長: 0.61mm

タイラギ浮遊幼生

平成二十六年年度の調査結果について

①タイラギ浮遊幼生の出現状況

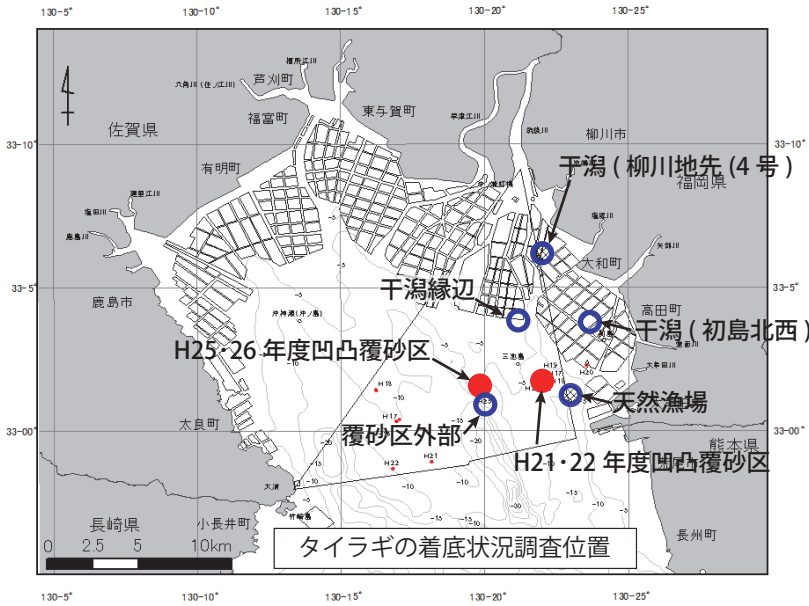
平成二十六年六月十二日から十月一日までの期間で、諫早湾湾口部(5地点)と覆砂区(2地点)でタイラギ浮遊幼生調査を行いました。

昨年のタイラギ浮遊幼生は、平成二十四年、二十五年と同様に少ない状況でした。

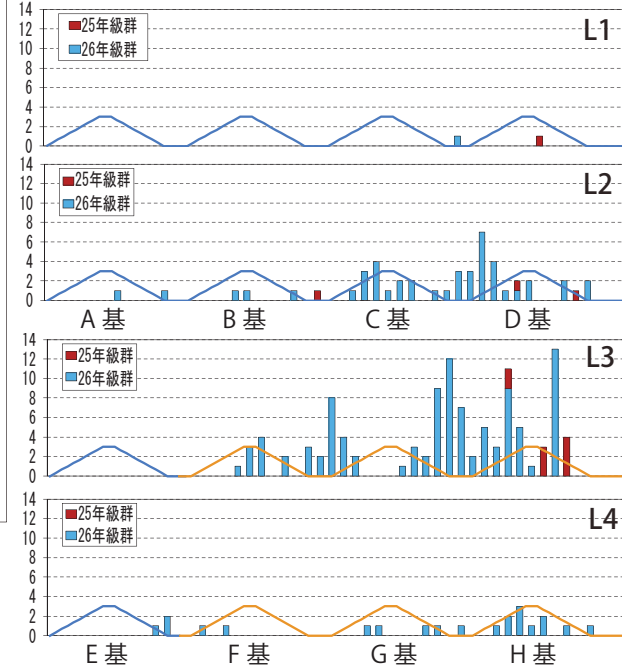
② タイラギの着底状況

平成二十六年十一月、二十七年二月に、覆砂区、天然漁場、干潟、干潟縁辺部、覆砂区外部で、タイラギの生息状況を調査しました。

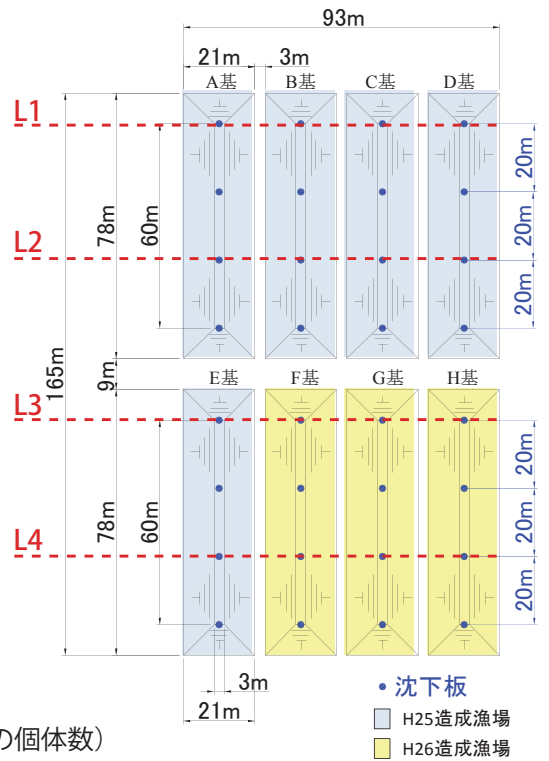
平成二十五年度から二十六年度に施工した覆砂区では、二月調査において、二十五年級群を一平米当たり最大1個体、二十六年級群を最大3個体確認しました。覆砂区以外では、天然漁場で一平米当たり0.1個体を確認しました。



平成 25・26 年度凹凸覆砂区



平成 27 年 2 月調査 (測線幅 2m × 調査幅 2m 当たりの個体数)



【調査方法】
 (覆砂区・ライン観測) 潜水士による目視観察。間縄付きの沈子ロープを測線の起点と終点間に張り、測線幅 2m の範囲の底泥表面のタイラギ個体数を 2m 毎に記録。
 (その他: スポット観測) 潜水士による目視観察。1人当たり 5 分間観察によりタイラギ個体数を記録。



③ タイラギ人工種苗の放流

平成二十六年九月に人工的に生産されたタイラギ種苗(稚貝)を畝型覆砂区に放流しました。放流したタイラギ種苗は、国立研究開発法人水産総合研究センター西海区水産研究所が、有明海産リシケタイラギ(福岡県海域で採捕)を母貝として生産したものです。

平成二十七年二月調査では、一平米当たり最大約五十個体を確認しました。

今年度の調査検討

平成二十六年年度の調査結果からみてタイラギ浮遊幼生の出現状況、タイラギの着底状況は非常に厳しい状況にあります。この状況を鑑み、私どもの調査グループは皆様にご協力頂きながら、次に示す取り組みを平成二十七年年度に進めていきます。

- ① 凹凸覆砂畝型工によるたいらぎ漁やその他魚介類漁への効果の検証
- ② タイラギの餌の質や量に着目したへい死原因の解明

次号は、学識経験者、試験研究機関および漁業関係者などを構成メンバーとする検討委員会(五月二十二日)の協議結果(平成二十七年年度の調査方針・調査内容)を皆様に報告する予定です。